

29 養液土耕栽培システムの導入

○水稲育苗ハウスの未使用期間や遊休ハウスを有効的に活用します。

＜養液土耕栽培システム活用のメリット＞

- 自動で施肥、灌水を行うため、減肥・作業省力化がはかれる。
- 精度の高い混入機や点滴チューブを使用することで作物の生育が揃いやすい
- 施肥をシステム化することにより、経験が浅くてもマニュアルに沿って栽培を進めることができ、安定収量が見込める。
- 育苗ハウスの未使用期間を有効活用できる。



育苗時期
(冬～春)



活用時期
(夏～冬)

＜ういずOneの商品構成＞

- 液肥混入機「ミニシステム」、灌水チューブ
- 栽培槽「プラスBOX」
- 園芸培土・パーライト
- 液肥(1液式・2液式)



- ネタフィムジャパン(株)の液肥混入機「ミニシステム」で灌水管理
- 液肥は1液式と2液式から選択

＜OATアグリオ製システムの商品構成＞

- 液肥混入機、灌水チューブ
- 栽培槽「球根コンテナ」
- 養液土耕システム専用培土
- 液肥(1液式)

